

大学 4 年間を振り返って

4年間の大学生生活を振り返ると、無事大学生生活を乗り越えることができたのは自分自身の力というよりは周りの人たちのおかげであったと思います。なので、ためになるようなことはあまり書けませんが参考までに。

大学に入りたての頃は、浪人したにも関わらずあまり名の知られていない大学（失礼な言い方ですみません）に入ってしまったなという気持ちで途方に暮れていました。暇を持て余していたので、とにかく新しいことを始めてみようと思って合気道部の練習を見に行き、流れで入部を決めました。自分的には合気道部に入部したのは大正解だったなと思います。先輩と同期は真面目な人が多く、将来のこと（大学院進学や就職）について真剣に考えていて、自分も腐っている場合じゃないなと思えたからです。なるべく良い成績をとったほうが希望する研究室の選択肢が広がると先輩に教えられ、周りに置いて行かれないように頑張ろうと意識を高く保てました。

2回生から寮生活が始まり、最初の頃は汚い寮の住み心地にげんがりしていましたが、明け方まで友達とくだらないことで騒いだり、ドライブしたりしてそれなりに楽しく過ごせました。

3回生になると、実験が本格的になり、授業の内容も深くなってきて面白いと思えるようになりました。1, 2年次の生物系の授業は高校生物の延長という感じがして少し退屈に感じることもありましたが（1, 2年次の授業を担当している教授の方々には申し訳ないです）、3回生になってからは知らないことを沢山学べて楽しかったです。授業や実験の内容が難しくなってもわからないことも増えたので、テスト前には徹夜したり、レポート提出前には実験の考察で頭を悩まされたりしました。

4回生になるとガラッと生活が変わりました。これまでは受動的に勉強するだけでしたが、研究室では自分から主体的にやるべきことを決めて実行しなければ何にも始まらないことがわかりました。夏までは院試の準備に追われてあっという間に時が流れましたが、夏休みが終わるとやるべきことがわからずダラダラとしてしまいました。冬になり、先輩に尻を叩かれてやっと実験を再開し、教授と話し合いながら卒研に向けて準備をしました。今となっては、自分から積極的に指導教官や教授に相談し、もっと実験させてもらえればよかったなと後悔しています。卒研前には先輩に実験だけでなく色々迷惑をかけ、助けていただきました。

この4年間で学んだことを聞かれると難しいですが、とにかく精神的に支え合える人がいることが大切だと思います。4年間を通して何回か心が折れかけた場面がありましたが、そんなときに支え合える人がいたから無事卒業できた

のだと思います。そろそろ話の着地点がわからなくなってきたのでこの辺にし
ときます。

山下 祐里奈